

第40回 教育研究全国大会（宮崎大会）

第2分科会 学習指導B 学びの連続の中で確かな資質・能力を育む学習指導

自分の思いを豊かに表現できる子どもの育成
～見方・考え方を働かせた授業を通して～

※令和4年度 出雲市立神戸川小学校での実践を通して

島根県奥出雲町立三成小学校 教諭 石飛 杏

（島根県教職員協議会）

1. 研究主題

自分の思いを豊かに表現できる子どもの育成
～見方・考え方を働かせた授業を通して～

2. 主題設定の理由

生産年齢人口の減少、AIの飛躍的な進化、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会は大きく、また急速に変化しており、予測困難な時代となっている。これからの時代を生きる子どもたちには、様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を集め、それを再構成し、新たな価値につなげていくこと等、複雑な状況変化の中で目標を達成するために柔軟に対応する資質・能力が求められている。令和2年度より完全実施となった学習指導要領でも、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の能力をバランスよく育てていくことの大切さが求められている。また、令和2年3月に島根県教育委員会は「しまね教育魅力化ビジョン」の中で島根県の教育の目指すべき姿や基本理念を示した。その中で、育成したい力の一つとして「自分の考えや意見を構築し伝える力」を挙げている。物事をじっくり考え、根拠を基に判断し、相手に分かりやすく伝える力を育成していくことがますます求められている。

3. 主題の捉え方

- (1) 「自分の思い」とは…相手、様々な物事に対して反応することから発し、各教科の「見方・考え方」を働かせることで深めたり、広げたりした自分の思いや考え。
- (2) 「豊かに表現」とは…自分の思いや考えを、他者の考えやテキスト等と関わらせながら、再構築し表現すること。
- (3) 「見方・考え方」とは…どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかというその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方。本校では、「学習のカギ」という言葉で児童に示している。

4. 研究目標

「自分の思いを豊かに表現できる」子どもを育成するために、各教科の「見方・考え方」を働かせ、自ら自分の考えを深めたり広げたりし、表現できる子どもが育つような指導法を実践を通して探る。

5. 研究仮説

- (1) 授業において働かせたい「見方・考え方」を明確にし、学びの見通しをもたせることで自分なりの思いや考えをもつことができるであろう。
- (2) 授業において働かせたい「見方・考え方」を基に、他者との対話によって思考を深める手立てを工夫することで自分なりの思いや考えを深めることができるであろう。
- (3) 授業において働かせたい「見方・考え方」を働かせて、学んだことを再構築できるような手立てを工夫することで、自分なりの確かな思いや考えを表現することができるであろう。

6. 音楽科の具体仮説

- (1) 曲との出会いを大切に、音楽的な見方・考えを働かせながら活動すれば、自分なりの思いや考えをもつことができるであろう。
- (2) 音楽的な見方・考えを働かせ、声に出したり体を動かしたりしながら自分の思いを伝え合う場の設定を工夫すれば、自分にとっての曲や演奏の楽しさを見いだし、自分なりの思いや考えを深めたり広げたりすることができるであろう。
- (3) 音楽的な見方・考えを働かせ、曲全体を見通した振り返りの工夫をすれば、既習事を生かし、音楽を形づくっている要素にふれながら、自分なりの表現ができるであろう。

7. 本研究の内容

本題材では、「かねがなる」「おまつりの音楽」「トルコ行進曲」の3つの教材を用いて音楽の仕組みの一つである「反復」が生み出す、旋律やリズムが繰り返される音楽の面白さに気付けるようにしたい。

第1次では、「かねがなる」を扱う。ゴン・ゴン・ゴーンの部分を反復させて歌の旋律と重ねて歌ったり、輪唱を楽しんだりする活動を通して、旋律の反復のよさや面白さに気付くことができるようにしたい。

第2次では、「おまつりの音楽」を扱う。繰り返しをつかって、自分だけのリズムをつくる。2年生ではこれまで、リズムの面白さを味わうために、常時活動としてリズムカレンダーや、リズムカードを用いた遊びを取り入れてきた。本教材では、ただリズムカードを並べるだけではなく、反復を用いるとまとまりのある音楽になることや、まとまりのある音楽は覚えて演奏しやすいという良さがあることを実感させたい。

第3次では、「トルコ行進曲」を扱う。本題材の鑑賞の指導に当たっては、以下の研究仮説を取り入れて指導していきたい。

仮説① 曲との出会わせ方の工夫

- 鑑賞曲を聴く前に、反復のある既習曲を歌ったり音楽づくりでつくったリズム打ちをしたりすることで、「反復」の感覚を体感させておけば、「反復」「旋律」に着目して聴くことができるであろう。

仮説② 自分の思いを伝える場の設定の工夫

- 児童の気付きや発言の中から鑑賞の視点を絞ったり、個に合わせた表現の場(身体表現、図形楽譜、わいわいシート等)を設定したりしながら曲を聴けば、「反復」「旋律」「強弱」に着目して自分なりに曲の楽しさや面白さを感じることができるであろう。

仮説③ 振り返りの工夫

- 「学習のカギ」を提示し、図形楽譜やワークシートを活用したり、本時の学びを俯瞰できるよう板書を工夫したりすれば、感じたことと気付いたこと(音楽を形づくっている要素等)とを結びつけるような振り返りができるであろう。

上記の3つの仮説について、鑑賞活動では以下のような手立てを実践していく。

鑑賞曲を聴く前に、「強弱」や「反復」のある既習の題材を想起させ、「かねがなる」を歌ったり、

「おまつりの音楽」のリズム打ちをしたりする。これにより鑑賞の際にも「強弱」や「反復」を意識して聴くことができるようにしたい。また、「反復」に気付くために、Aの旋律とBの旋律に分けて聴き、曲の構成に気付くようにしたい。

自分の思いを伝える手立てとして、「わいわいシート」を用いる。「わいわいシート」には、「感じたこと」を表す言葉（楽しい感じ、悲しい感じ等）と「気付いたこと」を表す言葉（強弱、速さ、旋律、仕組み、音色）を示している。「気付いたこと」は音楽を形づくっている要素であり、音楽科で働かせたい「見方・考え方（学習のカギ）」である。この「わいわいシート」を使うことにより、児童が自分の「感じたこと」と「気付いたこと」を表現できるよう支援したい。さらに、教師は児童の発言を受け、児童の感じたことと音楽を形づくっている要素を結び付けより深い理解を促したい。そのために、どの部分からそう感じたのか等の問い返しをしたり、個や集団で歌う、リズム打ちをする、繰り返し聴く等の活動を設定したりしたい。















学習の振り返りをする際には、家族への手紙形式のワークシートを使用する。その際、「学習のカギ」を確認したり、本時の板書を見たりして、感じたことと気付いたこと（音楽を形づくっている要素等）を結び付けられるようにしたい。最後には、児童が自分の思いやその根拠を実感できるよう、お気に入りポイントを紹介する。

8. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①技リズムとそのつなげ方の特徴に気づき、反復を用いてリズムをつくる技能を身に付けてつくっている。（音楽づくり）</p> <p>②知曲想と二つの旋律の特徴やその反復との関わりに気付いている。（鑑賞）</p>	<p>①思リズムが反復するよさや面白さを生かして、リズムのつなげ方を工夫し、どのような「おまつりの音楽」にするかについて思いをもっている。（音楽づくり）</p> <p>②思旋律の反復や強弱の変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏の楽しさを見いだし、体を動かすなどして味わって聴いている。（鑑賞）</p>	<p>①態反復と曲想のかかわりについて興味・関心をもち、リズムの反復に着目して音楽をつくったり、曲想との関わりを意識して音楽を聴いたりする学習に、友達と楽しみながら取り組もうとしている。（音楽づくり、鑑賞）</p>

9. 指導と評価の計画（全6時間）

次	時間	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	知・技	思	態
		◎旋律の繰り返しに気を付けて歌う。			
第二 次	第二 時	<p>○曲想と旋律の反復と関わりに気付いて「かねが なる」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲を聴いて、旋律の反復に気付きながら曲想を感じ取る。 ・旋律の音の動きやリズムに気を付けて、歌詞で歌う。 ・図形楽譜を見ながら、音の高さを手の位置で表わす等旋律の音の動きを体で感じ取らせるようにする。 ・楽器（バス木琴）に合わせて歌う。 ・鐘の音、歌唱、聴く、の3つのグループに分かれ、旋律の重なりを楽しむ。 			①発言・行動
		◎繰り返しをつかって 「おまつりの音楽」をつくる。			
第二 次	第二 時	<p>○いろいろなリズムパターンを組み合わせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8つのリズムをカードにして掲示する。全員で口唱歌の言葉で表現したり、手拍子で打ったりすることでリズム譜に慣れ親しむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>① ♩ (ドン ドン) ② ♩♪ (ウ ドドン) ③ ♩ ♩ (ドン ウン) ④ ♩ ♩ (ウン ドン) ⑤ ♩ ♩ (ドン ドコ) ⑥ ♩ ♩ (ドコ ドン) ⑦ ♩ ♩ (ドコ ドコ) ⑧ ♩♪♪ (ド ドン ド)</p> </div> <p>○反復を用いて8拍のリズムをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4つのカードを組み合わせる、8拍のリズムをつくる。 →繰り返しの例を参考にしながら、反復を意識し、まとまりのあるリズムにするようにする。 ・つくったリズムを口唱歌の言葉で表現したり手拍子で打ったりして確かめる。 ・ペアになって互いのリズムを紹介し合ったり、つなげて演奏したりして楽しむ。 →③を最後にすると終わった感じがすることや、反復の仕方などを確かめ合うようにする。 ・ペアでつなげたリズムをほかの友達にも紹介する。 			

第三時	<p>○反復を生かしてつくったリズムを組み合わせて演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4人程度のグループに分かれ、各自がつくったリズムを紹介し、反復に着目して聴き合う。 ・グループごとにリズムをつなげて、「おまつりの音楽」をつくる。 						
	<p>【予想される児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気な感じで始めたいから、細かいリズムをたくさんつかっているAさんから始めよう。 ・BさんとCさんのリズムは似ているからつなげよう。 						
	<p>第四時</p> <p>○つくった「おまつりの音楽」を発表して聴き合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに発表して、つくったリズムのよさや面白さを聴き合う。 <p>→強弱や速度を工夫しているグループのよさも認めるようにする。</p>						
◎旋律の繰り返しに気を付けて「トルコ行進曲」を聴く。							
第五時	<p>○二つの旋律の反復に気を付けて聴き、曲の構成を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「はじめのせんりつ」の部分を聴き、反復に気付く。繰り返し聴き、図形楽譜に表わし、一緒に手を動かしながら旋律に親しむ。 ・曲の続きを聴かせ、旋律が変わったところで手を挙げて、「もう一つのせんりつ」の特徴を感じ取る。 ・曲がA-B-A-B-A-codaの構成になっていることを知る。 ・二つの旋律の反復に気を付けて、曲全体を通して聴く。 						
第六時(本時)	<p>○二つの旋律のよさや面白さを感じ取って聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「はじめのせんりつ」と「もう一つのせんりつ」の組に分かれて曲を通して聴き、自分の旋律が聴こえたら立ち上がる。 <p>【予想される児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二つの旋律は順番になっていた。 ・「はじめのせんりつ」は音が切れていて、元気の良い感じがした。 ・「もう一つのせんりつ」は強弱がたくさんあった。激しい感じ。 <p>○強弱の変化に気付き、そのよさや面白さを感じ取って聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲の強弱に合わせて、手や体を動かしながら聴く。 ・曲の始めと終わりの部分の強弱がどのように変化していったのかについて気付いたことや、それによって行進の様子がどのように変化するのかについて想像したことを話し合う。 <p>【予想される児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弱くなったところは遠くを行進している感じ。 ・だんだんこちらに近づいてくるように聴こえるところがある。 <p>○「トルコ行進曲」の自分のお気に入りポイントを見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お気に入りの理由についても考え、発表する。 <p>○旋律の反復や強弱の変化に気を付けて、曲全体を味わって聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせて体を動かしたり、行進の様子を想像したりしながら自由に聴く。 						
第三次							

10. 研究の実際

(1) ねらい

旋律の特徴やその反復、強弱の変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏の楽しさを見だし、体を動かすなどして味わって聴く。 【思】②

(2) 本時で働かせたい見方・考え方「学習のカギ」

反復、旋律、強弱

(3) 展開（本時6/6）

学習活動と予想される児童の反応	教師の支援（○）と評価（☆）
<p>導入（5分）</p> <p>1 時活動をする。 ・既習曲を歌う。</p> <p>活動（25分）</p> <p>2 「トルコ行進曲」の旋律や曲の構造を思い出す。</p> <div data-bbox="150 987 823 1238" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【予想される児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律が2つあった。 ・順番になっていた。 ・歩く曲だから2拍子だった。 ・最後はだんだん音が小さくなっていった。 </div> <p>3 本時のめあてを確認する。</p>	<p>○伝え合いや学び合いができるよう、コの字型の席順を設定する。</p> <p>○反復を意識できるように、「かねがなる」を歌う。</p> <p>○旋律や曲の構成（A-B-A-B-A-coda）を想起できるよう前時の学習の足跡を掲示しておく。</p> <p>○実態に応じて、旋律を聴きながら思い出すようにする。</p>
<div data-bbox="185 1305 1094 1379" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>㊦ 「トルコ行進曲」のお気に入りポイントを見つけよう。</p> </div> <p>4 学習のカギを確認する。 旋律 反復 強弱</p> <p>5 旋律と反復をカギにして音楽を聴く。 ・「はじめのせんりつ」と「もう一つのせんりつ」の組に分かれて曲を通して聴き、自分の旋律が聴こえたら立ち上がる。 ・自分の担当の旋律を聴き、「感じたこと」「気付いたこと」を話し合う。</p> <div data-bbox="150 1843 823 2051" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【予想される児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二つの旋律は順番になっていた。 ・「はじめのせんりつ」は音が切れていて、元気の良い感じがした。 ・「もう一つのせんりつ」は強弱がたくさんあった。激しい感じ。 </div>	<p>○児童の気付きや発言から、本時のカギを設定するようにする。</p> <p>○考えを整理しやすいよう、カギを絞って聴かせる。</p> <p>○児童がAの旋律とBの旋律を意識しやすいよう、自分の旋律が聴こえたら立ち上がる活動を組む。</p> <p>○「感じたこと」「気付いたこと」を結び付けて考えやすいように、教師が児童の意見を分類しながら板書する。</p> <p>○「どの部分からそう思ったの?」「一番強く聴こえるところはどこ?」等児童の発言に対して、児童が自ら気付くことができるような発問や問い返しをする。</p> <p>○子どもの気付きに応じて区切った旋律を聴かせ、全員で共有するようにする。</p>

- 6 **強弱**をカギにして音楽を聴く。
- ・音が強くなったら大きく手を挙げ、弱くなったら小さく手を挙げて、強弱を実感する。

【予想される児童の反応】

- ・弱くなったところは遠くを行進している感じ。
- ・だんだんこちらに近づいてくるように聞こえるところがある。
- ・曲の真ん中のところは、目の前を行進しているみたい。

振り返り（15分）

- 7 「トルコ行進曲」のお気に入りポイントを見つけてワークシートに書く。
- ・お家の人に宛て、「トルコ行進曲」の良さを伝える手紙を書く。
 - ・友達の発表を聴く。
 - ・自分のお気に入りポイントを板書に貼る。

- 8 曲全体を味わって聴く。
- ・体を揺らす。
 - ・指揮をしたり、手拍子したりする。

○強弱に合わせて手を動かすことで、全員が音の強弱を確認できるようにする。

○「どんな風に行進していると思う？」などと問いかけ、強弱によって感じたことを児童から引き出すようにする。

○行進曲の拍感や強弱の表す様子に気付けるよう、既習曲「アメリカンパトロール」を想起させる。

○お気に入りのポイントを家の人に教えてあげようと投げかけることで、児童に目的意識をもたせ、意欲化を図る。

○お気に入りポイントが見つけない児童には、板書を見て考えるよう個別に支援する。

○児童それぞれがお気に入りポイントを板書に残すことで、自分の思いやその根拠となる部分を視覚的に捉えやすくする。

☆旋律の特徴やその反復、強弱の変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏の楽しさを見いだし、体を動かすなどして味わって聴いている。

（ワークシート・児童観察）【思②】

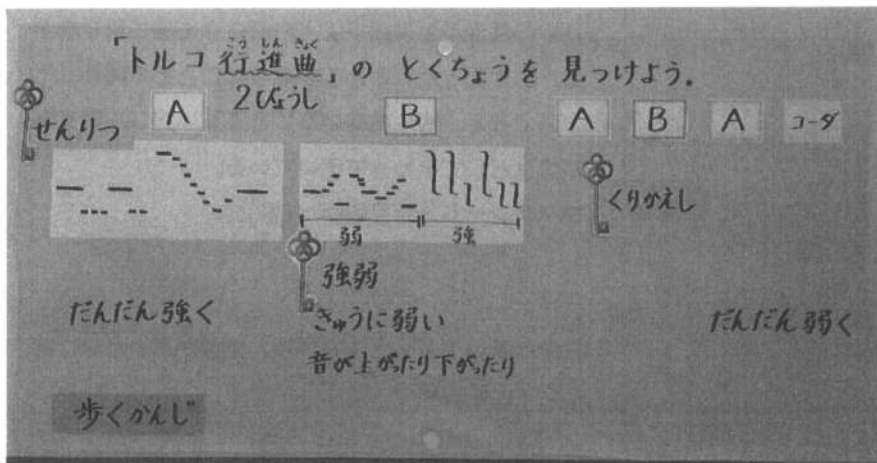
○自由に動いてよいと声を掛け、児童が思い思いに感じたことを表現できるようにする。

(4) 本時の評価

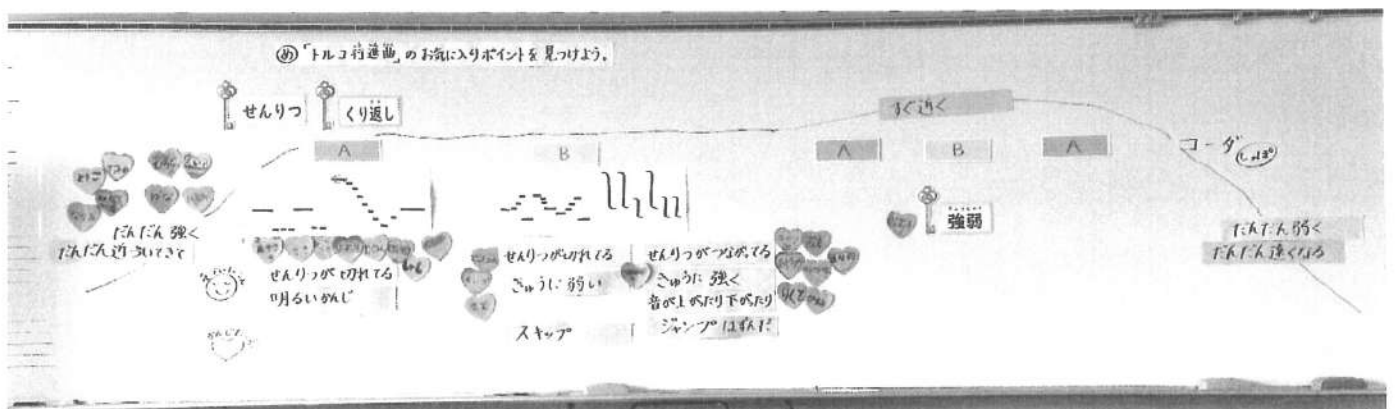
十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断される状況	支援を要する状況への手立て
<ul style="list-style-type: none"> ・二つの旋律の特徴やその反復、強弱の変化に注意深く耳を傾けて聴き、行進の様子について気付いたことや感じたことを発言し、その関わりについてよく考え、適切な体の動きをしながら味わって聴いている。 ・体を揺らしたり、指揮の真似やリズム打ちをしたりしながら、味わって曲を聴くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律の特徴やその反復、強弱の変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えている。 ・曲や演奏の楽しさを見だし、体を動かすなどして味わって聴いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律の反復や強弱の変化に気付けるように、教師が視線を合わせたリ傍で一緒に手を動かしたりする。 ・友達の動きを真似て動くよう声を掛ける。 ・どんなところが好きだと感じたか尋ね、ワークシートの書き方を助言する。

(5) 研究の視点

- ・身体表現、「わいわいシート」、図形楽譜等を活用して対話をしたことは、自分なりの思いや考えを深めるために有効であったか。 (仮説②)
- ・家族への手紙という形でワークシートを工夫したことは、「感じたこと」と「気付いたこと」を結び付けて自分の思いを表現するために有効であったか。 (仮説③)



【前時の学習の足跡】



【本時の板書】

1 1. 検証

◎身体表現、「わいわいシート」、図形楽譜等を活用して対話をしたことは、自分なりの思いや考えを深めるために有効であったか。 (仮説②)

身体表現として、以下のような方法を実践した。

- ・「はじめの旋律」と「もう一つの旋律」を聴き分ける際、二組に分かれ自分の旋律が聴こえたら立ち上がる。
→旋律の違いの聴き分け、二つの旋律が繰り返していることへの気付き
- ・図形楽譜に合わせて、旋律を口ずさみながら手を動かす。
→音のつながり方、音の高低の気付き
- ・音が強くなったら大きく手を挙げ、弱くなったら小さく手を挙げる。
→音の強弱への気付き
- ・旋律を聴いた児童の「スキップしている感じ」「ジャンプしているみたい」という発言で、旋律に合わせてジャンプやスキップを試みる。
→児童の気付きを全員で共有
- ・曲の強弱に合わせて、体を大きくしたり小さくしたりしながら行進してみる。
→児童の気付きを全員で共有

旋律の違いが分からない児童や、音の強弱に気付かない児童がいる中で、分かっている児童だけが「感じたこと」や「気付いたこと」を出し合っても学びは深まらない。自分の思いを表現するだけでなく、友達の表現を真似る、繰り返すといった多様な身体表現を取り入れることで、児童全員を同じ土台に乗せることができる。音楽科は、対話の工夫によって児童を一人も取りこぼすことなく同じ土台に乗せ、その土台の上でより学びを深めることができる教科だと感じた。

また、自分の思いを伝える手立てとして、「わいわいシート」を用いた。「わいわいシート」には、「感じたこと」を表す言葉（楽しい感じ、悲しい感じ等）と「気付いたこと」を表す言葉（強弱、速さ、旋律、仕組み、音色）を示している。「気付いたこと」は音楽を形づくっている要素であり、音楽科で働かせたい「見方・考え方（学習のカギ）」である。この「わいわいシート」を使うことにより、児童が自分の「感じたこと」と「気付いたこと」を表現できるよう支援したい。

「わいわいシート」は、児童の音楽的な語彙を耕す目的で1年時の鑑賞活動から用いてきた。児童が、自分の気づきを自分の言葉で書きためている様子もあった。本時では、「はじめの旋律」と「もうひとつの旋律」を聴き比べる際に、それぞれの旋律を聴いて「感じたこと」や「気付いたこと」を発表する際の手助けとして活用した。「わいわいシート」から自分の思いに一番近い言葉を見つけ、表現することができる児童がいた一方で、「わいわいシート」にある言葉から見つけようとして表現の幅が狭まってしまったように感じ取れる部分もあった。

さらに、教師は児童の発言を受け、児童の感じたことと音楽を形づくっている要素を結び付けより深い理解を促したい。そのために、どの部分からそう感じたのか等の問い返しをしたり、個や集団で歌う、リズム打ちをする、繰り返し聴く等の活動を設定したりしたい。

◎家族への手紙という形でワークシートを工夫したことは、「感じたこと」と「気付いたこと」を結び付けて自分の思いを表現するために有効であったか。 (仮説③)

授業の振り返りで児童が記入したワークシートを検証した。

鑑賞活動では、児童から出た「気付いたこと」を青色、「感じたこと」をピンク色の短冊に書いている。「こんな気付きがあったから、こう感じたんだね。」「こう感じたわけは、この気付きがあったからだね」等の声掛けと共に、児童の言葉を黒板上で結び付けるようにしている。

他学級で行った検証授業で用いたワークシートは、「気付いたこと」と「感じたこと」のどちらからでもお気に入りポイントが書けるような形式にしていた。

今日は、音楽のべんきょうで「トルコ行進曲(こうしんきょく)」をききました。
 ぼく・わたしのお気に入りポイントは、です。
 わけは、からです。
 ぜひ、聞いてみてください。

しかし、児童の中には、「気付いたこと」「感じたこと」の言葉でなく、聞いてほしいわけを書いている様子があった。ここでは、「気付いたこと」と「感じたこと」を結び付けながら曲の良さを感じ取って欲しかったため、ある程度、書き方を限定した方が書きやすいと感じ、本時のワークシートの形式をとることにした。

今日は、音楽のべんきょうで「トルコ行進曲(こうしんきょく)」をききました。
 「トルコ行進曲」をきいて、に気づいたよ。
 そこでは、な、かんじがしたよ。
 だから、そこがお気に入りポイントだよ。ぜひ、聞いてみてください。

本時で用いたワークシートでは、「気付いたこと」を書く上の枠、「感じたこと」を書く下の枠、のように書く枠と内容を限定したため、板書の言葉をつかって書いている児童が多かった。
 また、家族への手紙という形で提示したことにより、児童の意欲の向上にもつながった。

<p>おうちの人へ</p> <p>今日は、音楽のべんきょうで「トルコ行進曲」をきいたよ。 「トルコ行進曲」をきいて、 <u>音が上がったり下がったりすること</u> <input type="text"/>に、気づいたよ。 そこでは <u>シブシブ</u> <input type="text"/>な、かんじがしたよ。 だから、そこがお気に入りポイントだよ。 ぜひ、きいてみてね。</p>	<p>おうちの人へ</p> <p>今日は、音楽のべんきょうで「トルコ行進曲」をきいたよ。 「トルコ行進曲」をきいて、 <u>せんりががきれていてきくに強くな</u> <input type="text"/>に、気づいたよ。 そこでは <u>スキップしているみたいで楽しそ</u> <input type="text"/>な、かんじがしたよ。 だから、そこがお気に入りポイントだよ。 ぜひ、きいてみてね。</p>	<p>おうちの人へ</p> <p>今日は、音楽のべんきょうで「トルコ行進曲」をきいたよ。 「トルコ行進曲」をきいて、 <u>はいめは、だんす、きこもよく、 てきごは、たんとん音が強く なること</u> <input type="text"/>に、気づいたよ。 そこでは <u>あるいている人がたんとんたんとん ぐいてあるいている人がた んとんきこえていかな、かんじがしたよ。</u> だから、そこがお気に入りポイントだよ。 ぜひ、きいてみてね。</p>
--	---	---

1.2. 研究全体を通しての成果と課題

成果…○、課題…●

仮説②について

- 図形楽譜を見ながら手を動かしたことで、旋律の切れ目や音の高低に気付くことができた。また、その気付きがあったことで「スキップしている感じ」「跳ねている感じ」等の感じたことと結びつけることができた。
- 児童の気付きを取り上げて、身体を動かしながら聴いたことで、児童の感じ方を全員で共有したり確かめたりすることができた。それによって児童自身の考えが深まったり、新しい気付きにつながったりすることができた。
- 「学習のカギ」を「強弱」のみに絞り、児童に落とし込みたいことをもっと焦点化するとよい。
→気付かせたいことが多すぎると、1つずつが深まりにくい。

仮説③について

- 板書やわいわいシートにある、音楽の言葉をつかって自分の思いを表現できている児童が多かった。
- 「感じたこと」「気付いたこと」のどちらからでも書ける、より自由度のあるものでもよい。また、言葉にこだわり過ぎず、身体表現等で説明できる場があるとよい。
- わいわいシートの言葉だけでなく、自分の言葉（感じたこと）をたくさん引き出してから、要素（気付いたこと）につなげるとよい。曲に出会う場面で、感じたことをたくさん出させて、要素につなげるという方法もある。













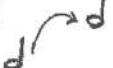

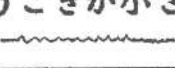
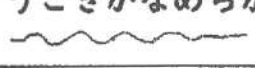
わいわいシート

()ねん()くみ()ばん なまえ()

☆かんじたこと

たのしい	あかるい	げんきな	かるやかな <small>かるいかんじ</small>	はずんだ <small>ジャンプ</small>
かなしい	くらい	しずかな	ゆったりとした <small>ゆるい</small>	おどけた <small>おもしろい</small>
はげしい	いさましい <small>ゆづかん</small>	はくりよくある <small>つよいかんじ</small>	はなやかな <small>なめらか</small>	やわらかい
やさしい	さびしい	かわいらしい	なめらかな	ふしぎな
つづく	おちつく	おわった	ちからづよい	
~のような	~みたい	あるくみ <small>たい</small>	ディズニーランド <small>みたい</small>	スキップ <small>の</small> のような
鳥 <small>み</small> たい				

☆きづいたこと

つよさ	つよい 	よわい 	
	だんだんつよく ○○○○ 	だんだんよわく    ○○○	
	とつぜんつよく ○○○○ 	とつぜんよわく    …	
はやさ	ゆっくり	はやい	
	あるくはやさ	かけあしくらい	
	だんだんはやく	だんだんおそく	
	とつぜんはやく	とつぜんおそく	
せんりつ	上がっていく 	下がっていく 	おとがとぶ 
	うごきが大きい 	うごきが小さい 	うごきがなめらか 
しくみ	くりかえす またでてくる	よびかけとこたえ	かわる
ねいろ	がっきのおと	ひとのこえ	



今日は、音楽のべんきょうで

「トルコ行進曲^{こうしんきょく}」をきいたよ。

「トルコ行進曲」をきいて、

に、気づいたよ。

そこでは

な、かんじがしたよ。

だから、そこがお気に入りポイントだよ。

ぜひ、きいてみてね。



より

